

事業所名

ののほな返り駅前

支援プログラム(放課後等デイサービス)

作成日

令和8年

3月

25日

法人(事業所)理念	法人:「結びつく人々の笑顔を追求め、社会福祉の発展に貢献する」事業所:発達に凹凸を持つ子どもたちが、野に咲く花のように、どこでもその子らしい笑顔の花を咲かせられるような、そんな場所と関わりを育んでいきます。						
支援方針	「たのしい」と「療育」のバランスを大切にし通所される子どもたちが笑顔の中で成長できよう支援を行います。発達段階に応じた支援プログラムを行い、子どもが「自分らしく生きる力」を育てることを目標にします。「生活スキル・社会スキル・対人関係スキル」を総合的に伸ばし、将来的な自立と社会参加につなげることを支援方針とします。						
営業時間	通常	10時	30分	17時	0分	送迎実施の有無	あり
	長期休み期間	9時	30分	16時	0分		

支援内容

「生活習慣の自立」「健康管理」「食事・睡眠・排泄の支援」「安全な環境づくり」といった分野に焦点を当て、子どもが安心して成長できるように支援します。

1. 生活習慣の自立支援

基本的な生活習慣を身につけることで、子どもが日常生活をスムーズに過ごせるよう支援します。

① 支度や身だしなみ

自分で衣服を選ぶ・着る練習

靴を履く、靴下をはく練習

身だしなみを整える習慣化

「自分でできた!」という達成感を持たせる

○ 支援方法

イラストや写真を活用した視覚的スケジュールを作成し、流れを覚えやすくする

「ボタンを止める」「ファスナーを上げる」など、遊びながら手先の器用さを高める練習

② 持ち物の管理

持ち物の出し入れができるよう支援(カバンを開ける・閉める、必要な物を取り出す)

「使ったら戻す」「自分の物を大切に使う」習慣づけ

忘れ物を減らすための視覚的チェックリストの活用

2. 健康管理と身体の発達支援

子どもが元気に活動できるよう、身体の発達と健康維持を支援します。

① 運動習慣の促進

バランス感覚を養う運動遊び(平均台、トランポリン、ボール遊びなど)

粗大運動(歩く、走る、跳ぶ、よじ登る)と微細運動(指先を使う作業)の組み合わせ

リズム運動(音楽に合わせて体を動かす)で協調運動を促す

座位保持が難しい子には、姿勢保持の練習

○ 支援方法

運動プログラムを作成し、楽しく取り組める工夫

「できた!」を積み重ねることで自信をつける

② 手洗いの習慣化

手洗いの流れを視覚的に提示し、順番を覚える

感染症予防のための衛生管理(マスクの着脱練習など)

○ 支援方法

手洗いのタイミングを決め、ルーチン化

「はい菌をやっつけよう!」など、遊び感覚で取り組む

3. 食事の支援

「食べることは健康の基本。子どもが楽しく食事できるようにサポートします。

① 食事のマナー

食事中の姿勢を整える(正しい椅子の高さや座り方を確認)

スプーン・フォークの使い方、箸の練習

「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶

食べるペースが速すぎる・遅すぎる手の調整

② 偏食・感覚過敏への対応

少しずつ新しい食材を試す「ひとくちチャレンジ」

視覚的に食材を見せて、食べる意欲を高める

スプーンを口に運ぶ動作が苦手な場合、大きめの持ちやすいスプーンを使う

○ 支援方法

調理プログラムを通して食への関心を増やす

「食べられた!」を積み重ね、自信をつける

子どもが自分で食べる機会を増やすことで食への興味を引き出す

4. 睡眠・休息の支援

子どもが規則正しい生活リズムを身につけられるよう支援します。

① 生活リズムの安定

適切な休憩時間を設定

夜更かしや昼夜逆転を防ぐためのアドバイスを保護者に提供

② リラックスできる環境づくり

静かな空間でクールダウンできるスペースの確保

ストレッチで心を落ち着かせる

5. 排泄の自立支援

子どもの排泄がスムーズに行えるよう支援します。

① 来所後、プログラム前、終わりの会前のタイミングでトイレの声掛けを行います。

6. 安全な環境づくり

子どもが安心して活動できるよう、安全面にも配慮した支援を行います。

① 危険回避のスキル

道路の歩き方(飛び出し防止)

知らない人に声をかけられたときの対応

火や刃物などの危険なものに対する注意喚起

② 災害時の対応

避難訓練の実施(地震・火災・津波)

非常時に落ち着いて避難できるように視覚的支援ツールを活用

7. 家庭・保護者との連携

生活習慣のアドバイスや相談支援を提供

家庭と施設での生活リズムを合わせるための協力

保護者向けの勉強会や情報提供

ののほなは「生活習慣の自立」「健康管理」「食事・睡眠・排泄の支援」「安全な環境づくり」を総合的に支援

無理なく、楽しく習慣化できるように「できた!」の経験を積み重ね

家庭と連携しながら、長期的に子どもの成長を支える

このような支援を通して、子どもが安心して生活できる環境を整えていきます。

本人支援

健康・生活

運動・感覚

1. 感覚統合療法の視点を取り入れたアプローチ

自分らしく生きるために「やりたい!」ことができる体づくりを、感覚・前庭覚・固有覚の発達を基にして、姿勢を調整する力、自分の体や動きをイメージする力、運動を組み立てる力を育てることにより行う。

具体的な支援例

ボウリング、ティーボール、トントン相撲で力加減を学ぶ

だるまさんがころんだで動く、止まるといった自分の動きを調整する力を養う

サーキット遊び(平均台、飛び石、ケンケンバなどを組み合わせたコース)や大縄跳びで姿勢を調整する力と運動を組み立てる力を養う

2. 微細運動・巧緻性の向上

手指の使い方や道具の操作性を向上させる支援を行う。

具体的な支援例

制作活動によるはさみやのりなどの道具の使い方の練習

3. ビジョントレーニング

目を上手に使う練習を行う。

具体的な支援例

風船パレーによる目で物体を追う練習

4. 保護者支援

保護者に対し、日常生活での工夫や支援方法をフィードバックする。

本人支援	認知・行動	<p>子どもの思考や理解力(認知)を育てながら、適切な行動を身につけられるようにサポートします。特に、注意・記憶・問題解決能力の向上、自己コントロールの強化、適応行動の支援を軸にした支援を行い、社会での自立や円滑な人間関係の形成を目指します。</p> <p><b>1. 認知(思考・理解)の発達支援</b> 子どもが物事を理解し、適切に判断できるようにするための支援を行います。</p> <p>① 注意力・集中力の向上 短時間の課題から徐々に集中できる時間を延ばす 視覚的な手がかりを活用する(イラスト・写真・マークなど) 「やることリスト」を使い、活動の流れを明確にする 音や光など、集中を妨げる環境を調整 ◆ 支援例 タイマーを使い、「〇分がんばろう！」と時間を決めて取り組む 1つの課題が終わったらテーブルからはけてから次の課題を出し、気が散らない環境を作る</p> <p>② 記憶力・学習のサポート 視覚支援を活用し、情報を整理しやすくする 記憶しやすいように、繰り返し学習(リピート学習)を行う 言葉だけでなく、動作や実験を通して学習する ◆ 支援例 絵カードを使ったマッチングゲーム 短い話を聞いて、「何があった？」と振り返る練習 動作を通して物の形や道具の使い方を覚える 調理プログラムを通して実際に食べて味を覚える、出来上がりを「待つ」 運動を通して体の動かし方を覚える、力加減を覚える</p> <p>③ 問題解決能力の育成 困ったときに「どうすればいいか？」を考える練習を行う 選択肢を提示し、「どちらを選ぶ？」と選ばせることで自発的な思考を促す スモールステップで成功体験を積み、試行錯誤する力を伸ばす ◆ 支援例 「〇ちゃんがおもちゃを取られました。どうする？」→ 解決方法を一緒に考える 「〇をされたらどんな気持ち？」→相手の視点に立つ練習、気持ちを伝える練習</p> <p><b>2. 行動の支援</b> 適切な行動を身につけ、自己コントロールを高める支援を行います。</p> <p>① 感情のコントロール(自己調整力の向上) 怒ったとき・不安になったときの対処法を学ぶ 感情を言葉で表現できるように支援する クールダウンの方法を練習する(深呼吸・クールダウンスペースを利用) ◆ 支援例 声の大きさ表、テンションの高さ表等を用いて自分の状況を視覚的に確認 「怒ったら10秒数えてみよう！」など、クールダウンの方法を具体的に伝える 好きなリラクゼーション方法(ぬいぐるみを抱く、音楽を聴く)を見つける</p> <p>② ルールの理解と行動の予測 視覚的なルール表を作成し、「何をすればいいか？」を明確にする 「いつどこで何をするか」のスケジュール表を用いて見通しを立てる SST(ソーシャルスキルトレーニング)を活用し、場面ごとの行動を練習 ◆ 支援例 身支度の流れを写真や絵カードで提示 「遊びの時間」「お片付けの時間」などをタイマーで知らせる</p> <p>③ 衝動性・こだわり行動への対応 「待つ」練習を段階的に行う こだわりが強い場合、事前に予告し、変化を受け入れやすくする 落ち着いて行動するためのルールを作る ◆ 支援例 「順番を待つ」練習(例:ゲームやすごろくを使う) 「〇〇をしたら××をするよ」とルールを明確にする こだわりのある子に対しては、「次は〇〇するよ」と事前に伝え、スムーズに移行</p> <p>④ 自己肯定感を育む 「できた！」を増やし、自己肯定感を高める 失敗しても大丈夫な経験を積む ◆ 支援例 「今日はこんなことができたよ！」と振り返る時間を作る できたことを視覚化(シールを貼る、絵に描く) 「〇〇ができたね」と具体的に褒める</p> <p><b>3. 家庭や学校との連携</b> 保護者に「子どもができたこと」を伝え、家庭でも成功体験を積めるようにする 学校と連携し、お互いの場での学びがどちらの生活でも活かせるようにする 保護者向けのアドバイス(困った行動の対応方法など)を提供</p>
	言語 コミュニケーション	<p>「ことは理解と発信を伸ばす」「適切なコミュニケーション手段を身につける」「発音の改善」「社会的なやり取りを学ぶ」という4つの柱を軸に支援を進めます。</p> <p><b>1. ことばの発達支援</b> 相手の意図や言葉を理解する力、自分の気持ちを出せるようになるための支援。 集団場面での一斉指示の理解、手順の把握など就学時に必要なスキルをプログラムを通して養う。 ◆ 具体的な支援 用途・状況説明 オノマトペを使ったジェスチャークイズ ひらがな・カタカナの練習 3ヒントクイズ 宝探しゲーム</p> <p><b>2. コミュニケーション能力の向上</b> ことば以外の方法も含めて、コミュニケーションの手段を増やす支援。 言葉にこだわらず、絵カードでの誘導、指差しや身振りを活用してその子に合った非言語コミュニケーション手段の獲得を目指す。 ◆ 具体的な支援 絵カードでスケジュール表を作成し、見通しの立つ構造化された環境設定。 代替コミュニケーションの活用→絵カードの提示やAAC(補助代替コミュニケーション)ツールを使い、理解、発信をサポートしていく。</p> <p><b>3. 発音の改善・構音訓練</b> 発音が不明瞭な場合や、特定の音が言えない場合の支援。</p> <p>【口の機能を育てる】 ◆ 具体的な支援 口の体操(舌を出す・巻く・動かす)、ストローや吹き戻しを使ってお話しに必要なお口の機能や筋力を育てる。 鏡を使いながら正しい口形を視覚的に把握していく。 発音が苦手な音に対して、正しい口や舌の使い方を伝えていく。</p> <p>【音の聞き分け】 正しい音、誤っている音を聞き分けられる耳の力を育てる。 ◆ 具体的な支援 音当てクイズ ひらがなのならびかえパズル 物語の音読練習</p> <p><b>4. 社会的コミュニケーションの支援</b> 状況に応じた適切なコミュニケーション方法を学ぶ。 ◆ 具体的な支援 状況によって「お話をしても良い時間」、「相手の話を聞く時間」を使い分ける練習。 対人スキルとして、「順番を守る」「お友達と共有する」「相手に助けを求める」力を養う。 場面に合った大きな声/小さな声の強弱を使い分ける。</p> <p><b>5. 保護者・支援者への助言</b> 日常生活での子どもとのコミュニケーションを促す方法を伝える。 ご家庭と支援者との連携づくり。 個別支援計画に沿った目標設定を設定し支援を行う。</p>

本人支援	人間関係 社会性	<p>SST(ソーシャルスキルトレーニング)を軸とした人間関係・社会性の本人支援を行います。 SST(ソーシャルスキルトレーニング)は、対人関係のスキルや社会的な適応力を育てるための訓練で、遊びやロールプレイを通じて、子どもが自然に社会的なやり取りを学べるようにすることを目的とします。ののほでは、発達の特徴に応じたアプローチを取り入れながら、自己表現や他者との関わりをスムーズにできるように支援します。</p> <p><b>1. SSTの基本構造</b> SSTのプログラムは、以下の流れで構成されます。</p> <p>スキルの説明 → どんな場面で必要か、なぜ重要かを分かりやすく伝える モデリング(見本を見せる) → 支援者や他の子どもが実演する ロールプレイ(練習) → 実際のやり取りをシミュレーション フィードバック → 良かった点や改善点を伝える 実生活での応用 → 家庭や園・学校で活かせるように促す</p> <p><b>2. SSTを活用した支援内容</b> ① 挨拶・コミュニケーションスキル 目的:人と円滑に関わるための第一歩</p> <p>支援内容: 挨拶の習慣化:「おはよう」「ありがとう」などを場面ごとに練習 相手の名前を呼ぶ練習:「○○くん、おはよう!」 目を見て話す練習(視線が合いづらい場合は肩や顔を見るように促す) 実践例: 「自己紹介ビンゴ」:友達や先生と順番に挨拶し、挨拶をしたお友だちには○をもらいビンゴを目指す 「お買い物リレー」:支援者に指示されたものを買に行き、もらえたら「ありがとう」を言い次の人にバトンタッチというゲーム</p> <p>② 順番・ルールを守る 目的:集団活動や遊びの中で協調性を身につける</p> <p>支援内容: 順番を待つ練習:「あとで」「次は○○くんの番」を意識 順番をボードに記入し視覚的に提示する ゲームのルールを理解する(例:すごろく・カードゲーム・しりとりなど) 負けても怒らない練習(ゲームの事前に「勝っても負けても怒ったり泣いたりしない」と確認と約束をする) 実践例: 「カード集めジャンケン」:勝った子がカードをもらい、最後にたくさんのカードを持っていた児童の勝ち 「チームビルディング」:どのゲームを行うのかをグループで話し合い、選んだゲームをグループで協力してクリアしていく</p> <p>③ 自己表現(気持ちを伝える) 目的:自分の感情を適切に表現し、伝える力を育てる</p> <p>支援内容: 「うれしい」「かなしい」「いやだ」の表現練習 好き・嫌いを伝える練習(「○○が好き!」「△△は苦手」など) 助けを求める練習(困ったときに「手伝ってください」と伝えるように) 実践例: 「今日の一言トーク」:今日の出来事とその時の気持ちをひな形を用いて繰り返し練習 「インタビュートーク」:自分の好みをインタビューされ答える練習</p> <p>④ 他者との関わり(お願い・断る・謝る) 目的:適切な距離感を持って他者と関わる力をつける</p> <p>支援内容: 「貸して」「どうぞ」のやり取りを練習 断るときの伝え方(「ごめんね、今つかってよ!」) 謝る習慣をつける(「ごめんね」の練習と相手の反応を知る) 実践例: 「制作プログラム」:制作に必要な物を「貸して」と伝え「いいよ」「待ってね」と返答をする</p> <p>⑤ 困ったときの対処(トラブル対応) 目的:困ったときに適切に対応できる力を養う</p> <p>支援内容: 先生や大人に伝える練習(「困っています」と伝える) 友達とのケンカを仲直りする練習 イライラしたときの気持ちの整理(深呼吸、クールダウン方法を学ぶ) 実践例: 「こんなときどうする」:色んな場面や状況を提示し、どのような言葉が適切なのか選択肢から選ぶ</p> <p><b>3. SSTプログラムの応用</b> SSTを個別・小集団で実施し、子どもの状態に合わせてプログラムを調整します。</p> <p>年齢・発達段階 支援のポイント 未就学児(3~5歳) 遊びを中心に楽しく社会スキルを学ぶ(順番を守る・挨拶する・気持ちを伝える) 小学校低学年(6~8歳) 友達との関係を深める(貸し借り・ゲームのルール・トラブル対応) 小学校中学年以上(9歳~) コミュニケーションの幅を広げる(適切な断り方・集団での役割・感情のコントロール)</p> <p><b>4. 保護者・支援者へのフィードバック</b> SSTの成果を実生活に活かすため、家庭や園・学校でも一貫した支援ができるよう、保護者や支援者と連携します。</p> <p>日常生活での関わり方を共有(挨拶や順番を意識する声かけ) 動画や写真で活動の様子を伝える(家庭でも同じ方法で練習できるように) 家庭で実践できる簡単なSST課題を提供(「お願いする」練習など)</p> <p>ののほではSSTを活用した人間関係・社会性の支援では、「楽しみながら学ぶ」ことを重要とし、遊びやロールプレイを通して、子どもが自然に社会スキルを習得できるよう、小さな成功体験を積み重ねていくことを大切にします。</p>			
		家族支援	連絡帳アプリでのこまめな情報共有。送迎サービスの充実。年1回以上の保護者会の開催、保護者面談の実施。	移行支援	必要に応じて、学校でのお子さんの様子を見学したり、学校の先生とお子さんの様子や支援方針について、情報共有したりします。進路に関する保護者面談(情報提供や制度説明)を行います。
		地域支援・地域連携	相談支援事業所や他事業所との連携。学校や園との情報共有。消防署見学や警察署見学等の地域資源を活用した体験プログラムを行います。	職員の質の向上	内部研修を行い、障がいへの理解を深めたり、新しい支援方法を学んだりします。毎週のスタッフミーティングで、現在の支援方針について検討し、お子さんや支援方法に関する情報を共有します。職員の外部研修への参加を奨励します。
		主な行事等	夏祭り・ハロウィンパーティー・クリスマスパーティー・バレンタインイベント・お誕生日会・消防署見学・収穫体験・避難訓練等。		